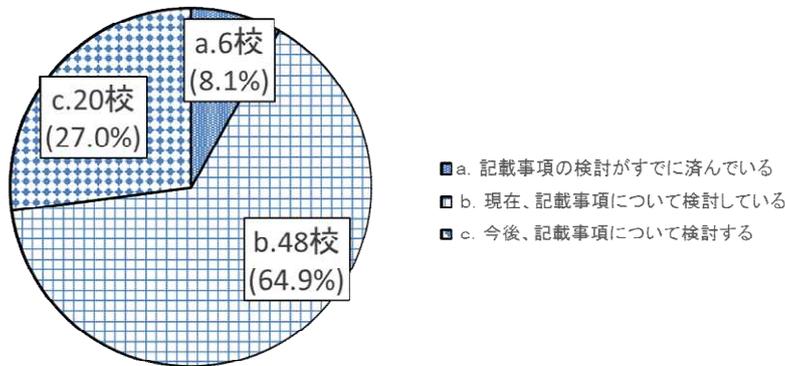


「実務実習実施計画書」の記載事項の検討状況について
(各大学への調査結果より)

1. 集計結果 (回答数: 73大学74学部)



2. 具体的な検討状況 (自由記述)

北海道地区	
(a)	調整機構でワーキンググループをつくり、道内3大学の委員が中心となって検討を進めてきた。
(b)	北海道地区調整機構のWGで検討中。
(b)	地区調整機構で検討中である。
東北地区	
(b)	東北地区調整機構内(特に大学間委員会)で情報共有・意見交換するとともに、WEBツールを利用して対応することを検討している。
(b)	東北地区調整機構大学間小委員会等で情報収集、検討を進めてきている。Webシステムにも必要事項を掲載できるように準備中である。
(b)	Web上で行う予定しており、東北地区調整機構で検討している。
(b)	東北地区調整機構の大学間小委員会で具体的な内容の標準項目を検討している。
(b)	東北地区調整機構を中心に検討している。調整機構からの内容に従って作成する。
(b)	調整機構にて統一見解を示し、実施を予定している。
関東地区	
(a)	「薬学実務実習に関するガイドライン」の各項目について、旧コアカリと新コアカリでの実習期、実習内容・方法、成績評価法、大学・教員の役割等に係る比較表を作成し、実務実習実施計画書については雛形作成を検討したが、可能であれば関東地区調整機構に所属する大学共通のものが望ましいため今後、改訂版Webシステムに掲載される予定の雛形を待って具体化していく。
(a)	全てについて準備し、現行で実施できるものは、既に実施している。
(a)	すでに記載事項の検討を一旦終了し、現行の実務実習(一部の学生のみ)で内容等を評価しているところである。なお、関東地区調整機構大学小委員会ではワーキンググループ(実務実習評価表および実習計画書WG)を立ち上げ、大学共通の実務実習計画書案の検討を開始している(統一化する記載内容等)。これが完成した場合は、本学への導入を検討する予定である。
(b)	「実習生評価方法」については、昨年度、本学で改訂コアカリ実務実習の試行を行い検討した。現在は地区調整機構を中心に検討している。「実習生に関する情報、大学での学習状況」については、何をどこまで開示するか、個人情報保護の観点から考え非常に難しいため、慎重に検討している。文科省で何か指針があれば、ご教示いただきたい。
(b)	例示された「実務実習実施計画書」を参考に、本学の実務実習計画書を作成中である。平成30年度の実務実習に向けて施設側と具体的な協議を行う。
(b)	関東地区調整機構において、実務実習の評価基準、実務実習実施計画書などに関する大学委員によるWGが立ち上がり、6月に第1回WGが開催された。各大学の実務実習実施計画書の例示がなされ、大学独自の部分を含めて検討を始めているところである。
(b)	本学では、従来から本学を中心に開発した実務実習進捗ネットワークツールを用い、日報、週報、自己評価、形成的評価、連携の状況、担当教員と指導薬剤師のコメント、訪問指導について記録していたが、新規に改定コアカリに対応したツールの開発を進めている。その中に、実務実習実施計画書の内容を盛り込むように計画している。

(b)	地区調整機構に設置された、実務実習評価および実務実習実施計画書策定に関するワーキンググループに本学教員も参画し、情報共有を図りつつ実施計画書の記載事項について検討を進めている。一部の指導薬剤師から強い要望がある学生の成績や健康情報については、守秘義務・個人情報保護の観点から、大学教員からは提示できない旨伝えているが、ご理解を頂けない施設があることが課題である。
(b)	一部の上記掲載については検討中である。・実習生に関する情報等
(b)	学習状況、実習の概要などはシラバスの提示をしている。評価方法は、調整機構でもルーブリック評価の作成を検討しているため、案が出た時点で本学としてどの様に進めるのか検討する予定である。スケジュール案に関しては、契約病院、近隣の薬剤師会には説明している。
(b)	現在、薬学実務実習に関する連絡会議（平成28年11月30日）で示された記載事項に準じて準備を進めている。実習施設へは、既にガイドラインに基づく実習内容等についてアンケート調査や説明会等を通じて大学の基本方針を周知している。
(b)	関東地区調整機構大学小委員会の実務実習実施計画書WGのメンバーとして各大学で連携し、統一した実施計画書を作成中である。
(b)	「施設情報を作成し、実務実習の内容に未実施の項目が生じないよう学生の割り付けを行う」「学生のこれまでの学習状況を基に、実習計画を個別化する」などの方針を考えている。
(b)	富士ゼロックスシステムの利用を予定しており、システムに搭載される「実務実習計画書」での対応を予定している。記載事項については、現在検討を進めているところであるが、その一部を示す。「実習生に関する情報」については、実務実習を行うにあたり、支障をきたす可能性の高い疾患又は薬剤の服用等については学生に了解を得た上で、事前に実習施設側へ伝達することを検討している。「大学での学習状況」については、改訂モデルカリキュラムと本学授業項目と連結表の作成し、学習状況の提示に利用することを検討している。「実習内容について概要」としては、薬局：薬局実習導入1週間、保険調剤3週間、薬物治療モニタリング・情報提供5週間、地域医療の実践2週間、病院：病院実習導入1週間、内服外用調剤1週間、注射調剤・無菌調製、がん化学療法2週間、病棟業務の実践4週間、DIおよびTDM医薬品管理2週間を目安に各施設の状況に応じて、実施可能であるか検討している。
(b)	現在本学仕様の実施計画書を作成中である。また、関東地区調整機構加盟の複数大学で協議を行い、適宜改編等を行う予定である。
(b)	実務実習実施計画書については、その記載内容を関東地区調整機構の大学小委員会で統一様式を作成することがWGで確認されており、大学でも準備を進めている。なお、形成的評価に用いるルーブリック評価表については、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会が作成したものを尊重し、またゼロックスWebで作成しているものを基準にして作成する予定である。なお、総括的評価については、大学でルーブリック評価表を作成する予定である。
(b)	内容等に関して検討中。
(c)	例示される評価基準の指標に沿って作成する予定。
(c)	関東地区調整機構で作成したものを使用する。
(c)	いくつかの契約病院を選定し、連携について具体的な検討を実施し、ひな形となるものを作成し、その後ひな形を参考に他の契約病院と検討して行く予定である。
(c)	今年度中に検討する予定である。
(c)	インターネットを介した実務実習指導管理システムを用いた方法を検討する予定である。
東海地区	
(a)	東海地区の大学、各県薬、各病薬の代表者を集めWSを行い、検討。ゼロックスシステムに反映させている。
(b)	地区調整機構等を中心に検討している。
(b)	東海地区の7薬系大学で連携して毎年協議を進めている。昨年度、実施計画書についても雛形を発表。今後 この案に従い具体的な対応を決めていく予定。
(b)	東海地区調整機構で検討中。WGが検討を行なっている。
(b)	個々の大学が独自のフォーマットで作成することは、施設側の負担が大きくなるため、地区調整機構を通じ、大学と施設間での記載事項の話し合いを進めているところ。既にひな形が作成され、引き続き検討していく。
(b)	H27.1.29（日）に地区調整機構を構成する大学教員・指導薬剤師があつまりワークショップ形式で検討。実習生の個人情報をごとまで開示、また、どのような手段で伝達すべきかを慎重に検討する必要がある。
北陸地区	
(b)	大学側の案はほぼ仕上がっている。一方、富山県の病院は深刻な薬剤師不足がおこっており、実務実習生を受け入れるキャパシティがあるかどうかの判断がつかず、31年度の実習受け入れ可能病院が完全には確定していないこと。加えて、富山県で病院薬剤師になる薬学部卒業生を増加させ、薬剤師不足を解消するために、富山県出身者のふるさと実習生の受け入れを優先したいとの意向が地域の病院側にあり、9割が県外出身者である本学の学生が富山県内で実習できない可能性が生じていることも実習先確定を困難にし、実習先との協議が遅れている。実習生の評価方法など、現在試行中であり、評価者の総評などをもとに、最終原案作成を検討している。

(b)	実務実習実施計画書は「例示」をベースとして作成し、大学・実習施設間連携や施設間連携は、学生個々の実務実習と臨床準備学習を体系的に評価する評価表を共有することで行うことを考えており、北陸三県の県薬剤師会及び病院薬剤師会のメンバーと評価検討会を数回開催する予定（第1回：10月1日）。
(c)	大学で現在検討中の実習評価基準や実習内容について、秋頃を目処に地区調整機構を通して薬局・病院薬剤師に対する説明会を開催し、実務実習実施計画書の内容を提示・協議する予定である。
近畿地区	
(b)	近畿地区では、実務実習記録に合わせた共通の実務実習実施計画書の作成を予定しており、現在原案を作成しており、今後近畿地区調整機構において検討する。
(b)	各薬剤師会、病院薬剤師会と調整中。
(b)	前年度から今年度も含め実務実習近畿調整機構がモデル地区で改定コアカリに対応した実務実習の試験適応を行っている。また、同調整機構は病院及び薬局に対して改定コアカリ対応した実務実習実施に向けてのアンケート調査を行っており、これらの報告を基に同調整機構で改定コアカリ対応の実務実習システムの構築を行う予定になっている。これらの結果を基に、本学では実務実習実施計画書の作成を検討する予定にしている。同時に、平成28年度より同計画書の作成に必要な学内実務実習体制について検討を行う予定である。
(b)	近畿地区では1施設において複数大学の学生が実習するため、近畿における薬系大学は実務実習実施計画などについて共通のフォーマットである必要が求められるため、近畿地区調整機構を中心に検討している。
(b)	近畿地区では、実務実習記録は指導管理システムを利用しており、そのシステムに実務実習計画書を導入する予定である。現在、近畿地区調整機構において検討しているところである。
(b)	事前学習から薬局実習、病院実習と続く連続性と、その実習内容を反映できる標準的な記載事項の雛形を複数準備しておくことも一案と考えられる。近畿地区調整機構としての取り組みも注視しながら、検討を平成29年秋以降から実施予定である。
(c)	同一施設で複数大学が実習を行うことから、調整機構において、大学間で共通の様式とするべき事項と大学判断で記述する事項を検討する予定である。
(c)	近畿地区調整機構における議論の進捗を見ながら、今夏以降に実務実習委員会において実務実習実施計画書に関する検討を進める予定である。
(c)	現在、病院・薬局のグループ化を検討しており、平成29年度秋季頃を目途にグループの確定を目指している。グループが確定次第、グループ単位で実務実習実施計画書の記載事項について検討を開始する。
(c)	現在、実務実習に必要な大学-病院-薬局の連携（グループ化）を進める連絡会等を主体的に開催する準備を、大学周辺の地域から進めているが、「実務実習実施計画書」の具体的な雛形の在るべき形式や検討課題は挙がっていない。グループ化を進める上で、指導薬剤師からは「評価の申し送りはどうするか？」や「具体的な実習内容とスケジュールはどう決めるか？」などの意見がでており、年内をメドに検討していく。
(c)	近畿地区調整機構において、議論がなされており、今後対応することになっている。
(c)	近畿地区調整機構を中心に案を検討中と聞いており、案を提示されるのを待っている。これは、近畿地区は複数の大学が1つの実習施設を利用することから、実習受入施設側から様式等は1本化することが求められていると認識しており、現状は大学独自の計画書の様式等を定める予定はない。
(c)	現在、病院-薬局のグループ化作業を進めており、グループが固まりつつある。今後、本年度秋ごろを目途に、構築したグループ毎に具体的な実習内容や実務実習実施計画書の内容を検討していく予定である。
(c)	各大学から病院・薬局に対してある程度共通の実習の実施を依頼するために、近畿地区調整機構に所属する大学間で協議を行いながら、ある程度共通のものを作成していく予定である。
中国・四国地区	
(a)	既に<大学が実習施設に提示する事項>については○実習生に関する情報 ○実習生評価方法 ○大学、実習生から実習施設への要望を記載したのがあるため、これに○大学での学習状況 ○実習の概要（施設情報、コアカリの実習内容の分担案、大学施設間の連携事項等）○薬局実習と病院実習の連携方法などを、<実習施設が大学に提示する事項>については○実習施設での具体的な実習内容とスケジュール案 ○実習指導体制 ○独自の実習内容、評価方法 ○実習施設から大学、実習生への要望 ○薬局実習で実施した項目を、追記した計画書を作成中である。さらに、実施できる項目について実習施設への再調査を関係団体と連携し進めている。
(b)	記載事項については、地区調整機構会議と合わせて行われる大学委員会にて議論中である。一方で、現在改訂中のWebシステムに実務実習実施計画書が実装される場合は、そのモデル案をベースに、記載事項の修正・検討を行う。
(b)	実習生に関する情報、大学での学習状況（臨床準備教育の概要）を公表する準備を行っているが、実習の概要や実習生評価方法の検討には至っていない。実習施設と実習内容の分担案や大学、実習施設間での連携事項とその伝達方法案の作成と同時に実習施設が大学に提示する事項についての事前協議を行い、実施計画書を作成する予定である。また中四国調整機構においても検討中であるので、その結果も反映して準備を行う予定である。

(b)	中国四国調整機構内にワーキンググループを立ち上げ、中国四国機構内での統一を図っている。現時点では実習スケジュール（案作成）、疾患学習記録（案作成）、各施設で学習する疾患（アンケート調査予定）、改訂コアカリ（1）～（3）評価用：文科省ルーブリック改訂版と日薬ルーブリックとのすり合わせなどを含めて解りやすい評価項目を検討、改訂コアカリ（1）～（3）評価用：レポートあるいは日誌（案作成）について検討を行っている。それらの原案をWEBシステム運営会社（ゼロックスを想定）に提供しシステム構築を策定する。システム構築に際しては必要に応じて同一システムを利用している他調整機構案とのすりあわせも予定している。
(b)	富士ゼロックスシステムの実務実習実施計画書案を使用する予定である。
(b)	地区調整機構で標準書式案を検討作成中であり、その完成案に準じて本学の計画書を作製する予定。
(b)	地区調整機構の専門委員会にて、ミニマムスタンダードとして共通フォーマットを提案し、富士ゼロックスWebシステムへのアップが検討されている。
(b)	中国・四国地区内のふるさと実習を想定して、調整機構内で共通フォーマットを作成した。このフォーマットをそのまま導入するか、修正を加えるか学内FDで検討中である。WEB媒体であることが望ましいので、クラウド化についても検討している。
(b)	実習評価方法については、ルーブリック評価を採用することが、県内改訂コアカリ対応実務実習WG（大学、愛媛県薬剤師会、愛媛県病院薬剤師会により選出された委員より構成）により決定され、その内容については現在検討中である。また、このWGによって実習の概要についてはすでに検討され、今後各実習施設と連携し詳細を詰めていく予定である。大学と実習施設間との情報共有については、Webシステムを利用する方向で検討を進めている。
(c)	中国・四国地区の調整機構で共通のフォーマットを作成しているところであり、それらが完成し次第、具体的な検討に入る予定である。
九州・山口地区	
(b)	先に述べた「医療薬学フォーラム2017シンポジウム」および「鈴木 匡先生による特別講演会」の内容を踏まえて、学内のワーキンググループで、今年度末を目処に、「実務実習実施計画書」案を作成し、来年度、地域薬剤師会との協議に入りたいと考えている
(b)	調整機構では、現在開発の進んでいるWEBシステムに盛り込まれる内容に準ずる形で、できるだけ統一したものにすることで検討を進めている。大学内では、事前学習、薬局、病院実習での実習概要について、どの程度まで記載するか、それぞれの担当を配置し検討を進めている。
(b)	webシステムの富士ゼロックスシステムを使用する予定であり、記載事項はその内容にあるものと考えている。ただ、項目の具体的な内容に関しては今後検討する。
(b)	大学としての検討は進めているが、調整機構内での動向が未だ確定していないため、具体的な作業には進んでいない。
(c)	今後検討するが、その時期は未定。
(c)	実務実習委員会で、この夏から準備していく。
(c)	九州山口地区調整機構での議論をふまえて検討する。